

大阪新聞錦画 第1号

長幼小月歌の青柳と三郎が三男兵之助
 の今年九才の小童とあるが二昨年の五月より
 初て小学授ふ入門せしより日々の勉強怠らば
 学登山と諺をよみてたゞ終生徒の上等
 といふべし其父母が懇家の法事小連れぬと云
 を一日の情の朋友の追抜くをのみみれば終親へ
 其意小任せ克肉のらに於て連れぬが兵助
 午時の帰り晝飯喰んとせし漬物の醬油
 ましにもあはれ表を通る醬油賣を呼を
 一升買ひて其男へ代料八母が如くをらひませ
 と約とせられ喰らり又学校へ出行りて母
 十帰り来り其屋中書つるを見つりて三郎へ持行
 見せる文二曰
 学校より土時不歸り晝飯を進む時不
 醬油賣前を通りて是を止めて醬油
 を買求め候二月二十日 青柳兵之助とあるを



小修政
 子修
 修
 修
 修

文花堂記
 彫
 七

年間の席へ出
 たるを一空のめく
 らみふ文明の
 かけた子才を
 感せぬとのハ
 王

大阪新聞錦画1号 文庫10-8066-1

